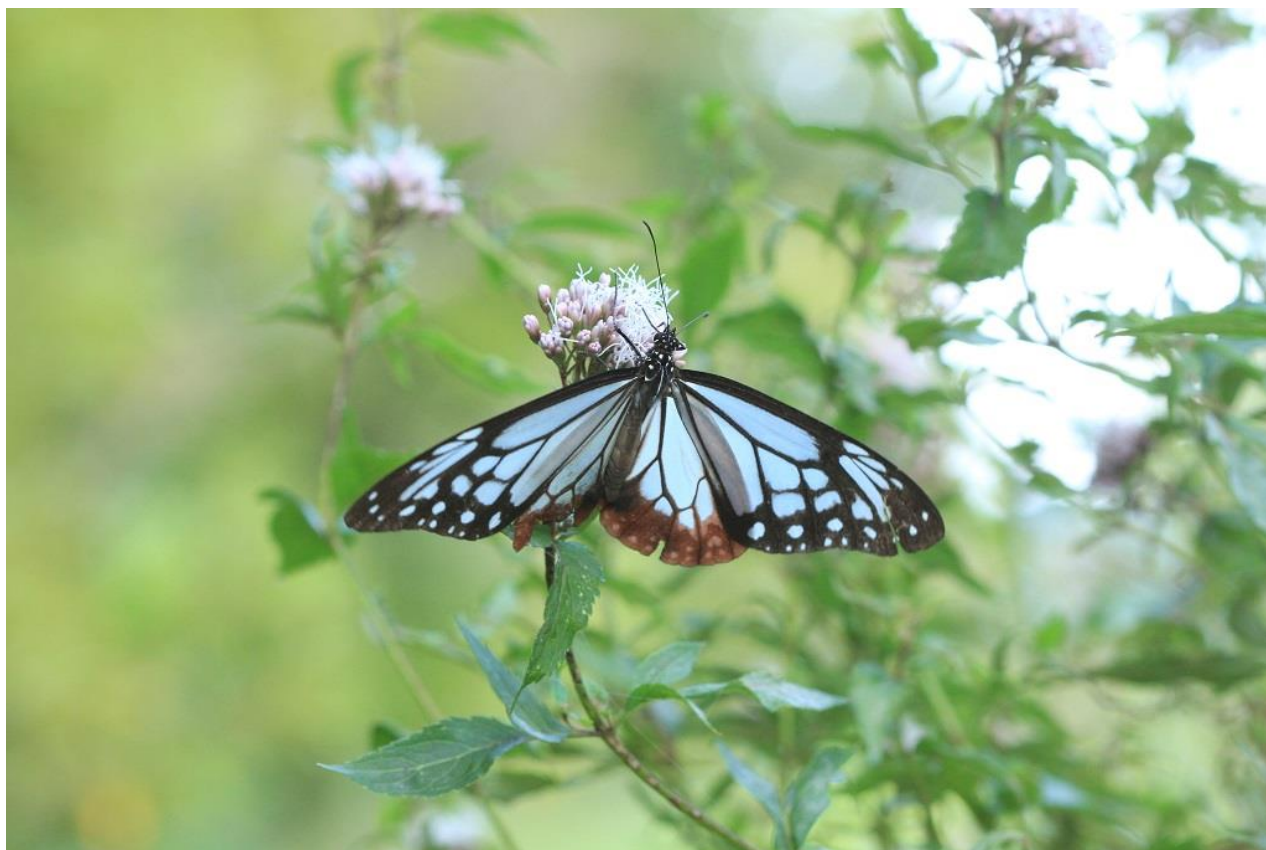


よしまい

2022年 冬号



アサギマダラ、来たよ!!

目次

公園の風景

- ・アサギマダラロードに ようこそ・・・1
- ・太陽電池で工作もしたよ♪・・・1
- ・セイトカアワダチソウ・・・1

ラムサール登録への道 ⑥・・・2

みんなの広場

- ・雑草魂・・・2

活動紹介

- ・ふれあいまつりは大にぎわい・・・3
- ・クリスマスリースを作ろう・・・3
- ・(ボランティア)²の活動・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？



会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= アサギマダラ観察ロードに ようこそ！ =



「旅する蝶」としてすっかりお馴染みになったアサギマダラ。春夏は台湾や南西諸島から本州、北海道へ。秋はその逆のコースを移動することがわかっています。寿命は数か月なので逆コースをたどるのは新しい世代ということになりますが、渡るべき時期や方角などどうやって知るのでしょうか。蜜源のある場所がなぜわかるのかも不思議です。海の上を飛んでいる時はいったいどこで休むのか、または休まずに飛び続けるのかも謎ですが、羽をたたんで海面に浮かんでいたチョウが一気に飛び立っていった」という、目撃情報があるそうです。水に浮かびながら羽を休めるのでしょうか？

さて、渡りの途中に立ち寄ってもらおうと、昨年から葦の会が中心になってアサギマダラの大好きなフジバカマの植え付けや草取り、水やりに汗を流してきた「アサギマダラ観察ロード」に10月23日、ついに一頭（蝶はなぜか匹ではなく頭!!）が飛来。その後次々に…とはいかず、その一頭が最初で最後だったかも？「来た？」「来た！」待ちわびていたアサギマダラは公園で蜜をいっぱい吸って栄養を付け、数日後には旅立っていったようです。今秋は台風の影響などにより羽化できず、全国的に激減とのこと。貴重な一頭でした。来年こそは乱舞するところを見たいなあ…

= 太陽電池で工作もしたよ♪ =



昨年より始まった中国電力と公園とのコラボイベント「エネルギー自然観察会」の第2回目が9月24日（土）行われました。15家族40名が参加されました。

ビオトープでのトンボ捕りはこの日だけは特別。本来、園内で捕獲はできないのです。干潟では泥に長靴を取られたり尻もちをついたりしながら生き物観察。しかけ罠を引き上げ、かかった魚やエビにテンションあげあげでした。陸のトンボ、海の魚介類はレンジャーさんからレクチャーを受けた後、自然へ帰してあげました。

中電さん企画の工作教室では太陽電池と牛乳パックを使ってのランタン作り。子供はもとよりお母さんも夢中でステキなランタンを仕上げていました。この活動を通して自然の大切さを理解し、更にそれを守り維持していく必要性を感じ取ってくれることを願います。

= セイタカアワダチソウ/背高泡立草 =

秋の草原を黄色に染める0.5～3mにも達する草で、北アメリカ原産のキク科の植物です。外来種として有名ですが、明治30年頃に観賞用や蜜源植物として導入されました。急速に増加したのは造成地が増えた昭和40年代以降で、現在では雑草化し河川敷や空き地などに生育するススキなどの在来種と競合し、どこでも見かけることができます。

用途は幅広く、乾燥茎はスダレに加工され、草自体はハーブとしての評価も高いようです。入浴剤としても消毒効果もあり有効で、湯船に浸しておくと泡立つとのこと、「泡立草」のゆえんでもあるようです。また、冬眠するミツバチの越冬蜜として、花がなくなるこの時期の貴重な蜜源となっています。



ラムサール登録への道 ⑥



公園の一面に「傷病クロツラヘラサギ・リハビリセンター」を作ったのもラムサール登録を目指す活動の一環です。ケージで飼育されているクロツラヘラサギは、2021年に多摩動物公園からやってきたメスの2羽。積極的な1羽（通称赤リング）と引っ込み思案だけどたまに押しの強くなる1羽（通称黒リング）で、彼女らとつがいになりたいのか、仲間と思って安心するのか、ケージの外側には時々野生のクロツラヘラサギもやってきます。あって欲しくはないことですが、怪我をした個体が運び込まれた場合はこのケージで野生復帰を目指します。傷病のクロツラは今のところいませんが、ラムサールのシンボルのような存在であるこの2羽が、冬鳥として朝鮮半島から飛んでくる野生のクロツラヘラサギを、この山口湾に呼び寄せてくれることを期待しているところです。

右上のマークは山口湾で見られる貴重な鳥を集めてデザインしたもので缶バッジにもなっています。皆さんは何種類わかりますか？ 《答え》黄色：クロツラヘラサギ、黄緑：ソリハシシギ、緑：ハマシギ、水色：シロチドリ、青：チュウシャクシギ、紫：キアシシギ、赤：ズグロカモメ、橙色：チュウビ ※大きさは正確ではありません。

みんなのひろば😊

雑草魂

何年か前の朝ドラの畑一面のソバの花に魅了され、5ヶ年計画でソバ畑に取り組み2年目になりました。花咲爺さんのように、簡単に種を撒けばよいと思っていたので、一面のゾンビの様なセイタカアワダチソウと葛の樹海に呆然。今年は猛暑もあり、すっかりやる気が失せてしまいました。

たまたま目にした本、「楽しく雑草管理・草刈にワザあり」を読むと、

- ・雑草にとっては人間の方が侵略者
- ・雑草の種子は休眠するので、長いものは10年以上経って発芽するもあり、全て除去でなく特性を知り景観や利用を考える
- ・セイタカアワダチソウは生育抑制の物質が出るので他の植物は生えにくい

風媒花でなく虫媒花であり、一時期花粉症の原因と言われていたのは濡れ衣だったなど目からウロコ。葦の会のおかげもあって雑草も少し愛でられる？ようになりました。

近所の師匠に見てもらい、こまめに草刈りをして時間をかけ畑をつくり、試しの種を撒いてメンバー入れ替えを図るようにアドバイスを受けました。炎天下の草刈り（ほとんど師匠）で平らになり光が見えたところに9月の台風で隣の山林の大木が畑に横たわりました。今までならすぐ白旗あげるところですが、しぶとい雑草と付き合う中で学んだ雑草魂でボチボチやります。すぐ怠けるので、たまに励ましの声をかけていただければうれしいです。

(K, N)



活動紹介

= 「ふれあいまつり」は大にぎわい！ =

10月30日、神様からのプレゼントのような完璧な秋晴れの下、葦の会主催で「第12回さらら浜自然観察公園ふれあいまつり」を実施しました。674名もの方々が来園。自然にまつわるゲームやパネルシアター、ワイヤーアート、ウオークラリーなどを楽しみました。新しい試みとしての、積水ハウスさんによる端材を利用した巣箱作りのコーナーでは、終日トントンと楽しい音が聞こえていました。



ウオークラリー



甘い焼き芋



お手伝い



バザー也大繁盛



巣箱作り



モルック



どんぐりころがし



パネルシアター



<俳句教室 最多選句>

= クリスマスリースを作ろう =

今年も余すところ一か月強となりました。例年大盛況の「クリスマスリースを作ろう」イベントは12月10日の開催です。例年より1週早いのでお間違いなく。葦の会のメンバーもご参加の皆さんに喜んで頂けるオーナメント採集に励みます♪

= (ボランティア)²の活動 =

園内のアサギマダラ観察ロードのフジバカマも花は10月の訪れと共に開花し始めました。夏時期の雑草取りはなかなかキツイ作業です。そこで会員のKさんの計らいで、9月には勤務先の積水ハウス山口工場からボランティアさん、20余名の方々が草取り作業のお手伝いにやって来て下さいました。日頃の少人数作業が嘘みたい、人の力を合わせる尊さも学ぶことができました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

・湖の面に映りて流る野分雲
貞代

・団栗で張るポケットを一たたき
道子

9月

10月

<編集後記>

2ヶ月めくりのカレンダーも最後の1枚となりました。今年もコロナから解放されることなく暮れていきそうです。それゆえに、自然を大切にする思いを、楽しく彩りよく紙面に反映することを心掛け編集してまいりました。自然公園の良い環境の中で機関紙の編集ができ、公園や会のスタッフとの交流が計れることも嬉しいことです。

2023年もご愛読頂けますよう宜しくお願いいたします。

(Tasha)